

1 経済日誌

2017年12月～2018年3月

全 国		和歌山・大阪	
12月8日	GDP年率2.5%増 内閣府が発表した2017年7～9月期の国内総生産（GDP）改定値は、物価変動の影響を除いた実質で前期から0.6%増、年率換算で2.5%増となった。	12月14日	南紀白浜空港へチャーター便が就航 和歌山県は、来年1月、韓国光州務安（こうしゅうむあん）空港から南紀白浜空港へ12往復の連続チャーター便が就航すると発表した。
12月15日	大企業景況感11年ぶり高水準 日本銀行が発表した12月の全国企業短期経済観測調査（短観）は、企業の景況感を示す業況判断指数（DI）が大企業製造業でプラス25となり、5四半期連続で改善し、11年ぶりの高水準となった。	1月18日	梅干しの調味廃液でバイオ発電 田辺市の中田食品と宮惣ケミカルは、梅干しの調味廃液から発生するメタンガスを活用した「バイオガス発電」に乗り出すと発表した。梅調味廃液を活用したバイオガス発電は全国初。
12月22日	出生数2年連続100万人割れ 厚生労働省は、平成29年の人口動態統計の年間推計を発表した。出生数は1899年に統計を開始して以来、最少だった前年の97万6978人を下回り、94万1千人と過去最少を更新した。	1月19日	世界文化遺産推薦決定 政府は、日本最大の大山古墳（仁徳天皇陵、堺市）を含む大阪府の「百舌鳥・古市古墳群」を世界文化遺産に推薦することを正式に決めた。2019年夏のユネスコ世界遺産委員会での登録を目指す。
12月22日	社会保障費拡大止まらず 政府は、2018年度予算案を閣議決定した。一般会計の歳出総額は、97兆7128億円と6年連続で過去最大を更新した。歳出の3割超を占める社会保障費は、32兆9732億円で前年度を4997億円上回る。	2月20日	G20サミット大阪開催へ 政府は、2019年に日本で開く20カ国・地域（G20）首脳会議を大阪で開く方針を決めた。時期は6月末から7月初旬の方向で調整している。2008年に始まった同会議を日本で開くのは初めて。
1月12日	訪日客2869万人、5年連続最多 国土交通相は、2017年の訪日外国人観光客数（推計値）が前年比19.3%増の2869万1千人だったと発表した。最多を更新するのは2013年に初めて1千万人を超えて以来、5年連続となった。	2月23日	大阪府立大学・市立大学が法人統合へ 大阪府立大学と大阪市立大学の運営法人が統合し、2019年4月に新法人「公立大学法人大阪」が発足する。2022年4月に大学自体を統合する計画で、統合後は国内最大の公立大学の誕生となる。
1月30日	失業率23年ぶり2%台 総務省が発表した2017年の完全失業率は2.8%と、1994年以来23年ぶりに3%を割り込んだ。また、厚生労働省が発表した2017年平均の有効求人倍率は、1.50倍と44年ぶりの高さとなった。	3月2日	和歌山県内有効求人倍率最高値 和歌山労働局は、1月の県内有効求人倍率（季節調整値）が前月から0.02ポイント上昇し、1.34倍だったと発表した。バブル期より高い数値で、平成では最高値を記録した。
2月8日	経常黒字リーマン後最大 財務省が発表した2017年の国際収支統計によると、経常収支は21兆8742億円の黒字だった。黒字額は前年比7.5%増で、2007年以来10年ぶりの高水準となった。	3月12日	大阪城天守閣の入館者数が過去最高 大阪市は、大阪城天守閣が3月10日に年間入館者数最高記録255万7394人を更新したと発表した。記録更新は平成27年度以降、3年連続の更新。
2月28日	外国人宿泊客最多7800万人 観光庁は、2017年の日本に宿泊した外国人の延べ人数が前年比12.4%増の7800万人となり、6年連続で過去最高を更新したと発表した。	3月16日	和歌山市内の宿泊客数が過去最高 和歌山市は、2017年の宿泊客数が前年比41%増加し93万8691人泊となり、統計開始以来、過去最高であった前年を上回り、記録を更新したと発表した。
3月27日	公示地価上昇全国に波及 国土交通省が発表した2018年1月1日時点の公示地価は、商業・工業・住宅の全用途（全国）で0.7%のプラスと3年連続で上昇した。地方圏も26年ぶりに上昇に転じ、0.041%のプラスだった。	3月27日	商業地大阪「ミナミ」が「キタ」を逆転 国土交通省が発表した2018年1月1日時点の公示地価で、大阪府内の最高価格地点が心斎橋のある「ミナミ」となり、1970年の調査開始以来初めて、JR大阪駅近くの「キタ」を抜いた。

2 地域開発のうごき

2017年12月～2018年3月

和歌山県内

12月21日 みなべ町 津波避難センター完成

みなべ町が同町気佐藤に建設していた「津波避難センター」が完成した。鉄筋コンクリート3階建て、延べ床面積は約618㎡で約500人の収容を想定したビル型避難施設。

12月23日 新宮紀宝道路起工

新宮市あけぼの－三重県紀宝町間を結ぶ「一般国道42号新宮紀宝道路」の起工式が行われた。近畿自動車道紀勢線の一部を構成する自動車専用道路で総事業費は約210億円。

1月12日 県内初「木質バイオマス発電所」

木質バイオマス発電所が、県内で初めて上富田町に建設されることになり、同町と事業運営するグリーンサーマル和歌山が公害防止協定に調印した。稼働開始は2020年3月を予定。

1月16日 新宮市文化複合施設整備案を変更

新宮市は、文化ホールと図書館を併設した文化複合施設の構造・配置案を公表した。予定地から新宮城下町遺跡の遺構が発掘されたため、当初計画の3棟から4階建て1棟に変更した。

1月24日 JR和歌山駅前の高層複合ビル起工

JR和歌山駅前に2020年2月完成予定の高層複合ビルの起工式が行われた。タワー棟は地上20階、地下1階建てで、商業、医療、共同住宅の複合ビル、駐車場棟は9階建て。

1月26日 串本町にロケット発射場

キャノン電子やIHIエアロスペースなどが設立した民間ロケット会社「新世代小型ロケット開発企画（東京都港区）が、串本町に民間初のロケット発射場を建設する計画であることがわかった。

2月2日 紀南広域の廃棄物最終処分場が建設へ

紀南地方10市町村でつくる紀南環境広域施設組合は、一般廃棄物の最終処分場について、予定地の田辺市稲成町の町内会と「建設同意協定」を結んだ。2021年夏ごろの供用を目指す。

2月26日 JR紀伊田辺駅 新駅舎来春完成へ

建て替えが決まっているJR紀伊田辺駅の新駅舎の概要を、JR西日本と田辺市が発表した。新駅舎は鉄骨平屋で面積391㎡、5月にも現駅舎の解体に着手し、来年春の完成を目指す。

3月4日 那智勝浦町立温泉病院が移転 完成式

南海トラフ大地震の津波浸水の恐れがあった那智勝浦町立温泉病院が、同町天満の浸水域外へ移転し、完成式が行われた。新病院は鉄骨造り4階建てで、十分な耐震性を備えている。

3月22日 南海高野線 高野下－極楽橋間 運転再開へ

南海電鉄は、昨年10月の台風21号による影響で運休していた南海高野線の高野下－極楽橋間が、約5ヶ月ぶりに3月31日から運転を再開すると発表した。

3 地域開発のうごき

2017年12月～2018年3月

大阪府内

12月12日 茨木市、市民会館跡地活用基本構想案を公表

茨木市は、市民会館跡地エリア活用基本構想案を公表した。敷地エリアを「市民会館跡地＋福祉文化会館＋人工台地＋中央公園南グランド」とし、南グランドに新施設を建設する。

12月13日 ロンコ・ジャパン専用物流施設「プロフィットマート堺」着工

ラサール不動産投資顧問、NIPPO、三菱UFJリースは、三社共同で開発するロンコ・ジャパンの物流施設「プロフィットマート堺」を来年1月5日に着工すると発表した。

1月10日 御堂筋に日本初「W(ダブリュー)ホテル」

米ホテル大手のマリオット・インターナショナルと積水ハウスは、大阪・御堂筋沿いに日本で初の高級ホテルブランド「W OSAKA」を2021年2月にオープンすると発表した。

1月26日 咲洲4.4haを売却

大阪市は、咲洲のコスモスクエア地区の計4.4haをアーク不動産（大阪市）に72億円で売却すると発表した。2021年度以降、ホテルや商業施設などが順次開業する予定。

1月30日 高島屋東別館がホテルに

高島屋は、昭和初期の歴史的建築物として知られる高島屋東別館（大阪市浪速区）を滞在型ホテルに改装し、2019年冬に開業すると発表した。

2月26日 中之島再生医療拠点 基本計画案を公表

大阪市北区中之島に再生医療の拠点を設ける構想で、大阪府・市は、施設概要など基本計画案を公表した。メディカル棟と研究開発棟で構成され、延べ床面積は計約5万㎡を想定。

2月28日 「千里阪急」と商業施設「セルシー」が一体開発

千里ニュータウンの商業施設「セルシー」について、エイチ・ツー・オー リテイリングは、隣接する百貨店「千里阪急」と一体で再開発すると発表した。

3月1日 吹田に「スマートタウン」建設

パナソニックが、JR東海道線岸辺駅（吹田市）の北側に所有する約2万3千㎡の工場跡地を活用し、次世代型都市開発による「スマートタウン」を計画していることが明らかになった。

3月2日 「イオンモール藤井寺」跡地にショッピングセンターを新設

イオンモールは、藤井寺市で建替え計画を進めている「イオンモール藤井寺」を、「(仮称)イオン藤井寺ショッピングセンター」として新設し、2019年春オープンすると発表した。

3月6日 駅直結商業施設「ビエラ高槻」グランドオープン

JR西日本不動産開発は、3月23日、JR高槻駅の北側に商業施設「ビエラ高槻」を開業すると発表した。当施設は、駅中央口のペデストリアンデッキを介して2階部分が直結している。

4 関西国際空港

2017年12月～2018年3月

関西国際空港

12月5日 関空-バクー線を新規就航

関西エアポートは、貨物航空会社シルクウェイ・ウエスト・エアラインズが12月29日より関空-バクー線を週1便で就航すると発表した。同社の定期便就航は、関空が日本初となる。

12月6日 関西エアポート 2018年3月期中間決算は増収増益

関西エアポートは、2017年4月～9月期の連結決算を発表した。営業収益は前年同期比11%増加し993億円、当期純利益は61%増加し148億円だった。

12月13日 関空-釧路線を新規就航

LCC（格安航空会社）のピーチ・アビエーションは、2018年8月1日から関空-釧路線をデイリー便で就航すると発表した。釧路空港にLCCが定期便で就航するのが初めて。

12月14日 関空-シドニー線が就航

オーストラリアのカンタス航空は、関空-シドニー線を就航した。同社の関空就航は2007年9月以来、約10年ぶりの再開となり、同線は週3便で運航する。

12月19日 関空-ホノルル線が就航

シンガポール航空系のLCC、スクートは、関空-ホノルル線を就航した。LCCによる関空-ホノルル線就航は、マレーシアのエアアジア・エックスに次いで2社目となる。

1月25日 関空旅客数 3年連続最多

関西エアポートは、2017年の関空の国際線と国内線の総旅客数が前年比11%増の2798万人となり、開港以来暦年ベースで過去最高を更新した。

1月26日 関空-クラーク線を新規就航

関西エアポートは、3月27日からシンガポールのLCC、ジェットスター・アジアが関空-クラーク（フィリピン）線を週3便で就航すると発表した。

2月23日 関空-仁川線を1日3便体制に

韓国のLCC、エアソウルは、現在1日2便体制の関空-仁川線について、3月5日から週5便を追加、3月25日から週2便を追加し1日3便体制にすると発表した。

3月8日 関空が定時運行遵守率ランキングで世界1位に

関西エアポートは、フライト情報プロバイザーのOAG Aviation Worldwide Limitedがまとめた定時運行遵守率において、関空が大規模空港部門で世界1位になったと発表した。

3月22日 ピーチとバニラ 統合発表

ANAホールディングスは、傘下のLCC、ピーチ・アビエーションとバニラ・エアを2019年度末までに経営統合すると発表した。